



第二回 墨アート  
筒井三代子さん (金浦)



▲筒井さんの作品『花』

腕に確かな技術を持つ人がいる。その腕で作られるものが人々を魅了する。このコーナーでは、そんなキラリと光る技を持つ「匠」たちを紹介します。

幼少から習い始めた書道。その基本を習得し二十歳の頃から専門的に取り組んだジャンルが、現代詩文書をアレンジした「墨アート」という新しい芸術。

多くの人に気軽に親しんでもらえ、日常の生活に違和感なく溶け込める作品づくりに一番の魅力を感じ、福山市を中心に活動されてきたそうです。

独自の書体のみならず、墨の色や濃淡、さらには文字と余白のレイアウトなど、隅々にまでこだわりを感じさせる作品には、今年初めて笠岡市内で開いた展覧会でも、共感する多くの市民から称賛の声が寄せられていました。

これからの制作活動に対する夢をお尋ねしたところ、「日本の伝統文化を代表する書を世界の人々にも受け入れてもらえるよう、和洋融合の作品づくりを進め、積極的に海外にも発表していきたい。また、感性のままに芸術表現できる純真な子どもたちのサポートにも取り組みたいですね。」と、その熱い想いを語ってくださいました。

竹喬美術館の光彩 31



ヨウシュヤマゴボウ

小野竹喬 作

昭和37(1962)年  
29.7×41.8cm

「裏庭に、いつのまにか根を下して、年々たくましく延びる草である。夏の終りに近くなると此実は紫色に変わって行くが、赤い液汁を出して毒々しい感じである。植物図鑑を調べて漸やくヨウシュヤマゴボウと云う学名を探りあてた。そして更に嬉しかったのは、毒々しく感じた此草が、実は薬草であった事である。(竹喬のことば)」

はつきりとした色合いのヨウシュヤマゴボウの茎が、四方にすつと伸びている。色を着けられた葉もぬり残された葉も、ゆつたりと丁寧な筆致で紙の上に写しとられている。

薄い緑に変化を与えるように、ところどころで濃い緑が使われる。まだ硬く小さな実がぼつぼつと見えるのが夏の初めの様子である。この、裏庭で行ったスケッチをもとに、第五回現代日本美術展への出品作が制作された。

展覧会と行事のご案内

特別展「楽しい版画」  
7月23日(土)  
～9月4日(日)  
内外の作家による版画  
約120点をお楽しみ  
ください。

講演会  
「さまざまな版画」  
藤川汎正氏  
7月24日(日)13:30～  
入館料のみ必要。

〒714-0087  
笠岡市六番町1-17  
☎63-3967  
ホームページ  
<http://www.city.kasaoka.okayama.jp/0013/0001.html>

今月の表紙

学校週五日制に対しての取り組みとして陶山地区で定着している「土曜チャレンジクラブ」。その今年度第一回目が6月18日に陶山小学校で行われました。

参加した子どもたちは、ペットボトルを使ってかざぐるまや空気砲などを作り、ペットボトルと水に関するクイズで科学の楽しさを学びました。

最後は校庭でペットボトルロケットの打ち上げ。「3・2・1！」とかけ声をかけてスイッチオン。勢いよく大空へ飛んでいくロケットに、みんな感激の笑顔でした。

係から

梅雨入りしたもののカラカラ天気が続き、このまま夏本番に突入してしまうのではと思わせる今年の暑さ。

昨年は相次ぐ台風の襲来を受けたため、大雨はもうこりこりと思っていました。大雨はもうこりこりと思つていましたが、こうも降らないと逆に渇水を心配して、ダムでの貯水率に気がなったり、恵みの雨が待ち遠しい毎日です。

各地域で国体の花いっぱい運動が進められています。私たちの生活にも緑の草花にも必要な雨が降ることを祈り、10月に国体の会場が花いっぱいになり彩られることを願っています。(中)



Nakano Mikahara

発行日/平成17年7月1日  
発行/笠岡市役所  
編集/企画政策課  
〒714-8601 笠岡市中央町1-1  
☎69-2114

印刷/アドハウス ☎66-4670

笠岡市ホームページ：<http://www.city.kasaoka.okayama.jp>  
メールアドレス：[kouhou@city.kasaoka.okayama.jp](mailto:kouhou@city.kasaoka.okayama.jp)



※この広報は再生紙を使用し地球環境にやさしい植物性大豆油インキで印刷しています。

R100 古紙配合率100%の再生紙を使用しています